



Sailing Ahead

2026 年 8 月

北半球の夏が終わりに近づく中、PIANC コミュニティ全体にまたがる最新ニュースや最新情報へのアップデートを皆さまにお届けします。

この 8 月号では、今後開催されるイベントをご紹介します。皆さまのカレンダーに主要なイベント日付をぜひマーキング・日程確保をお願いいたします。また、「PIANC Working with Nature Award 2028（PIANC 自然との協働・共生賞 2028）」へのご応募もお待ちしております。自然に根ざしたアプローチが、いかに持続可能な水上交通インフラに貢献できるかを示す革新的なプロジェクトをぜひ称えましょう。

少し先を見ると、10 月は PIANC にとり執行委員会を開催する重要な月でもあります。プログラム詳細や追加情報については、近日中にお知らせしますので、お待ちください。

通常どおり、本号ニュースレターでは、PIANC 各委員会、WG（ワーキンググループ）、及び各国部会の最新ニュースや活動状況の情報をお届けし、世界中の会員の皆さまの専門的な知識、協力や貢献をハイライトしています。また、姉妹団体・協会にの今後の刊行物やイベントについても掲載していますので、水上交通および関連するインフラ分野の全体動向を把握していただけます。

最後に、本号では、Arie Burggraaf 氏の追悼記事を掲載しています。ご遺族、ご友人、そして同僚の皆さまに心よりお悔やみ申し上げます。

今月号をお楽しみいただければ幸いです。そして、常に PIANC コミュニティを支えていただいている皆さまに感謝申し上げます。

今後の PIANC イベントにご参加ください！

NordPIANC 2026
エストニア・タリン
2026 年 9 月 9 日 - 11 日



[会議プログラムはこちら！](#)

(本会合・イベントの登録はメ切となっています)

PIANC COPEDEC XI**
インド・チェンナイ
2027 年 2 月 21 日 - 26 日

** COPEDEC: Conference on Coastal and Port Engineering in Developing Countries(開発途上国における海岸・港湾工学国際会議)



PIANC-Japan 事務局(注)
↑上の画像のクリックで COPEDEC XI のプロモーションビデオを視聴できます

[会議ウェブサイトはこちら！](#)

PIANC Smart Rivers 2027
インドネシア・パレンバン
2027 年 6 月 14 日 - 18 日



[会議ウェブサイトはこちら！](#)

PIANC-Japan 事務局(注)

日本からの皆さまの積極的な論文ご投稿を
お願いいたします。

○論文アブストラクト(1 ページ)募集中！
(2026 年 12 月 1 日, アブストラクトメ切)
アブストラクト提出についてはこちら↓
<https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/>

アブストラクト・テンプレートはこちら↓
<https://smartrivers2027indonesia.com/template-abstract/>

○参加登録(早期割引)開始
2026 年 12 月 1 日～

○募集論文テーマ一覧を含む[会議ウェブサイト\(概要\)の仮訳 10 頁～11 頁参照](#)

PIANC YP-COM BIENNIAL TECHNICAL VISIT(BTV)***
スペイン・バルセロナ
2027 年 6 月 30 日 - 7 月 2 日

** PIANC 若手技術者委員会(YP-Com)が概ね隔年で世界各地にて開催

[詳細情報\(フライヤー\)はこちら！](#)

PIANC WwN 賞 2028 への応募はこちら

PIANC WwN 賞(自然との協働・共生賞) 2028 (PIANC WORKING WITH NATURE AWARD 2028)



🤖 応募のメリット

- ✓ 水上交通インフラにおける革新的かつエコフレンドリーな応募者のアプローチへの国際的な評価の獲得
- ✓ 応募者の持続可能な取組みのアピールにつながる
- ✓ 応募プロジェクトを先例とする他プロジェクトの範となる

応募プロジェクトが認定証(Certificate of Recognition)を獲得している場合は、2028 年 PIANC 世界航路会議(PIANC World Congress)において、本賞の候補となります。

※PIANC-Japan 事務局(注) 参考資料以下のとおり
[応募等に関連する本部ウェブサイト\(一部\)
の「仮訳」12 頁参照](#)

👤 応募資格

自然との共生・協働(WwN: Working with Nature)の理念を具現化する水上交通インフラ・プロジェクトであれば、完了／継続案件にかかわらず応募の資格があります

🔗 応募方法

過去の受賞プロジェクトに関する情報の確認、及びプロジェクトの応募申請(提出)については、[PIANC Web サイト](#)をご参照ください。

PIANC 若手技術者委員会(YP-Com)からのニュース



[日本の若手技術者が対面参加のネットワーキングイベントを開催](#)

*上記の捕捉記事の仮訳

[13 頁参照](#)

PIANC WG からのニュース



「港湾の気候変動に対する強靱化ガイダンス」策定に向け、PIANC WG 259 の
ブラッセル会合を開催

*上記の捕捉記事の仮訳
14 頁～15 頁参照

PIANC コミュニティからのニュース

各国部会、各国支部からの実施済または今後予定される活動を共有するニュース

PIANC 日本部会 からのニュース



- PIANC WG 日本委員が国土交通省から表彰されました

*上記の捕捉記事の仮訳
16 頁参照

- PIANC-IAPH アジアセミナー 2026 -港湾における脱炭素化- フライヤー

*上記フライヤーの日本語版
17 頁～18 頁参照

PIANC スペイン部会 からのニュース



- PIANC スペイン 第 21 回若手技術者委員会 技術会合

*上記の捕捉記事の仮訳
19 頁参照

- スペイン部会 年次総会を開催 2026 年 6 月 18 日

*上記の捕捉記事の仮訳
20 頁参照

- PIANC 海港委委員会(MarCom) ワークショップ開催 2026 年 6 月 18 日

*上記の捕捉記事の仮訳
21 頁参照

PIANC 英国部会 からのニュース



- PIANC 英国 若手技術者セミナー

*上記の捕捉記事の仮訳
22 頁参照

出版物

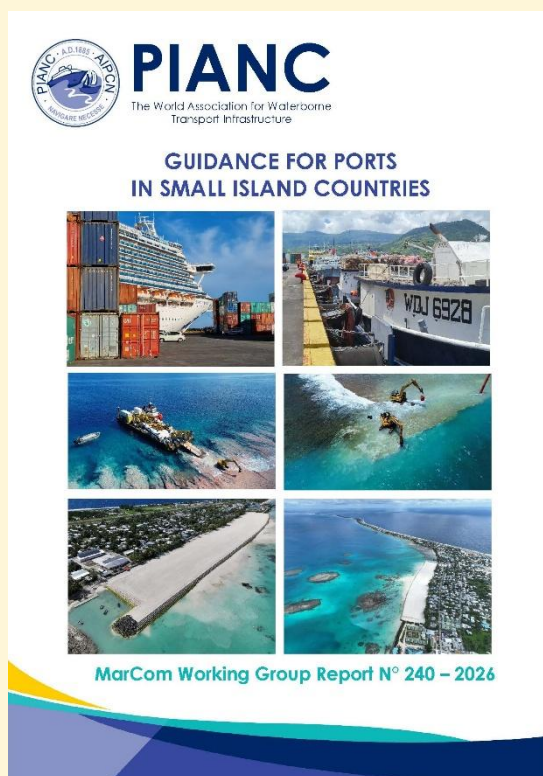
発刊中

以下の報告書は 2026 年 6 月 に発刊されています

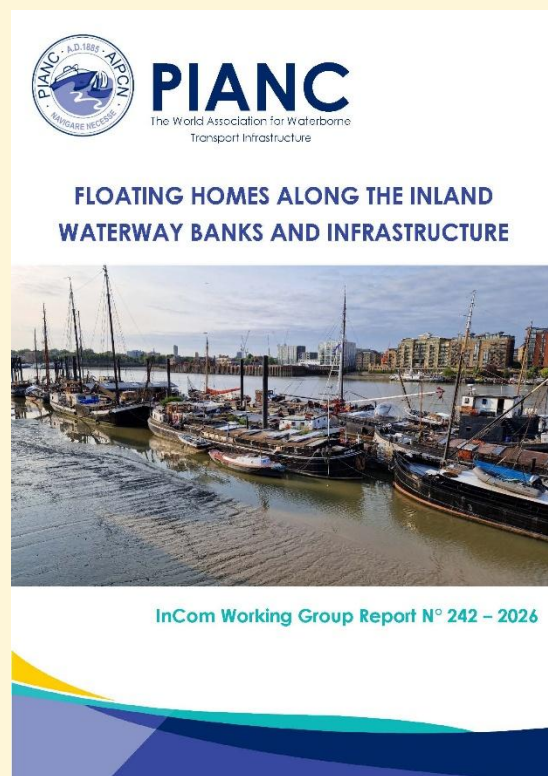
※PIANC-Japan 事務局(注), 先月号からの記事の再掲となっています。

※本部プレスリリースのダウンロードは, 下記の報告書の表紙をクリックしてください。

- PIANC WG 240(海港委): 小規模島嶼国の港湾のガイダンス(Guidance for ports in small island Countries)
- PIANC WG 242(内陸水路委): 内陸水路護岸・インフラ沿いの浮体式住居(Floating Homes along the Inland Waterway Banks and Infrastructure)



WG 240 報告書の刊行時の本部プレス
リリースの仮訳は [23 頁参照](#)



WG 242 報告書の刊行時の本部プレス
リリースの仮訳は [24 頁参照](#)

発刊予定

以下の報告書は, 2026 年 9 月に発刊または準備中です。

- PIANC WG 171(海港委): 水路・港湾設計のための船舶航行シミュレーション
(Ship Handling Simulation Dedicated to Channel and Harbour Design)
- PIANC WG 243(海港委): コンテナターミナル舗装の持続可能性 -設計から供用終了まで
(Sustainability of Container Terminal Pavements – From Design to End-of-Life)

開催予定のイベント

PIANC 米国 第3回ウェビナー - 適応型マリーナのインフラ：成長、規制、及びレジリエンス(強靱性, 変化への対応力)のための計画

表題の PIANC 米国の第3回ウェビナーの参加登録は受付中です。

 日 時：2026 年 10 月 28 日(水)午後 2:00～3:00(米国東部夏時間/EDT)

 参加費：無料

 C P D : I PDH 単位

PIANC 米国は,PIANC レクリエーション港湾・水路委員会([Recreation Commission: RecCom](#))の協力のもとで, 2026 年シリーズの3回目となるウェビナー開催をご案内します。

本ウェビナーは, PIANC WG 149「マリーナ設計ガイドライン(Guidelines for Marina Design)」の最新状況や, 以下の視点からマリーナの計画・設計における「適応型マリーナのインフラ」及び「実践的なアプローチ」に焦点を当てるものです。

- ・柔軟性(Flexible)
- ・未来志向(Future-oriented)
- ・運用, 環境, 社会, 技術上のニーズ変化に対する対応力(レジリエンス)

講師は, 近く発行予定の国際的なガイドラインに関する主要な最新情報, マリーナ計画や管理面における新たなトレンド, 今日の設計者・技術者・プランナー・運営者・ウォーターフロント専門家に関係する専門的な幾つかの話題を提供します。

マリーナ計画, 海岸工学, 水路インフラ, ウォーターフロント開発のいずれかの分野に携わる方々にとり, 本ウェビナーは, マリーナ設計の未来に係る有意義な知見を得る機会です。

[参加登録はこちら！](#)

IADC「浚渫・埋立セミナー」バリ島で開催



IADC: International Association of
Dredging Companies

2026年11月23日から26日にかけて、IADCの浚渫・埋立セミナーが、バリ島にて開催されます。4日間に及ぶ本セミナーは、専門家による講義、対話型のワークショップや実践的な入札講義を通して、浚渫と埋立に係る包括的な導入研修を受ける機会となります。

今回のセミナーは、幅広く参加者を募るため、参加登録料は3,100ユーロから1,900ユーロへと大幅な割引が適用可能となっています。

[詳細はこちら！](#)

第7回 IAHR 若手専門家オンライン会合



IAHR: International Association for Hydro-
Environment Engineering and Research

IAHRの専門人材育成・教育委員会が主催する「IAHR 若手専門家会合」は、若手技術者、研究者、及び学生の皆さまに、ご自身の研究や成果の発表・アピールを行う機会を提供いたします。加えて、世界をリードするトップクラスの専門家からの指導や助言を得られるほか、ネットワークの拡大も可能となります。

ぜひ、第7回 IAHR 若手専門家会合への参加をご検討いただき、最新の情報やニュースを得るためのご登録をお願いいたします。

[アブストラクト提出はこちら\(9/12メ切\)！](#)

PIANC プラチナパートナーからのニュース

SFT 社(ShibataFenderTeam), タリン(エストニア)開催の NordPIANC 2026 に貢献

9月9日から11日にかけて、PIANC エストニアは「NordPIANC 2026」会合を開催します。北欧のPIANCコミュニティが一堂に会し、エストニアの首都タリンの周辺で、3日間にわたりセミナーやネットワーキング、現地視察を実施するものです。そのセミナープログラムの一環として、SFT 社では、[Markus Bleher](#) 氏(SFT 社のスカンジナビア地域の代理人兼代表)が「効率的かつ持続可能な港湾運営のための移動式陸電供給システム(Mobile Shore Power Systems for Efficient and Sustainable Port Operations)」と題した発表を実施します。このプレゼンは、日常の港湾運営に必要な柔軟性と電化のメリットを両立させ、防舷材システムや安全な着岸要件とも統合させた移動式陸電供給へのアプローチに焦点を当てるも

のです。長年にわたる PIANC の会員として、SFT 社は、NordPIANC コミュニティに自社の専門知識を提供し、海運・港湾セクターの未来を形成していくため、現在の取組みや今後の発展についての議論に参画できるこうした機会を重要視しています。

[Angels Blasco](#)

Junior Marketing Manager, SFT

訃 報

Arie Burggraaf 氏 (1940-2026)



元・港湾部門首席シビルエンジニアの Arie Herman Burggraaf 氏は、2026 年 8 月 10 日に 86 歳で逝去されました。ご遺族には令夫人の Liz 氏、ご子息の Anton 氏、ご息女の Jolanda 氏がいます。

Burggraaf 氏は、南アフリカ全土の港湾における 40 年間に及ぶ港湾エンジニアとしての功績や、ケープタウンの V&A Waterfront(ヴィクトリア&アルフレッド・ウォーターフロント)再開発における同氏の果たした影響力でよく知られています。

同氏は PIANC の熱心な支援者であり、南アフリカの港湾を代表する会員でもありました。1990 年代後半から 2000 年代にかけ、数多くの国際会合に出席しました。彼は、南アフリカの港湾部門首席シビルエンジニアを務め、そのキャリアは 2003 年までの約 40 年間に及びました。また、ケープタウン港における V&A ウォーターフロント再開発を主導し、退職後も長年にわたり V&AW 社の取締役を務めました。

PIANC 本部は、Arie Herman Burggraaf 氏のご家族および故人を慕う皆さまに対し、謹んで哀悼の意を表します。

[追悼文の全文はこちら](#)

以下は PIANC のプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANCをフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC 公式サイト：<https://www.pianc.org/>

PIANC 会員になるには（右記, 日本部会へご連絡を） info@pianc-jp.org

<https://www.pianc.org/join-pianc/>

PIANC Smart Rivers 2027 会議ウェブサイトの概要(仮訳)

英語版サイトはこちら→ [Smart Rivers 2027](https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/)

開催までの概略スケジュール

2026 年 5 月 20 日: 論文アブストラクト(1 ページ以内)募集開始

*アブストラクトについてはこちら→<https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/>

*同上-テンプレートはこちら →<https://smartrivers2027indonesia.com/template-abstract/>

2026 年 12 月 1 日: 参加登録(早期割引分)受付開始

2026 年 12 月 1 日: 論文アブストラクト(1 ページ以内)提出締切

2027 年 1 月 29 日: 論文アブストラクト受理通知

2027 年 2 月 1 日: 参加登録(早期割引分)締切

2027 年 3 月 19 日: 論文提出締切

2027 年 4 月 29 日: 参加登録締切

2027 年 6 月 14 日: Smart Rivers 2027 開催

***開催地:インドネシア 南スマトラ州パレンバン市**

参加登録料

12/1 より
受付開始

・ 通常料金 参加登録	950 米ドル
・ 早期割引 参加登録	850 米ドル(2027 年 2 月 1 日まで)
・ PIANC 会員早期割引登録	800 米ドル(- / -)
・ ASEAN 加盟国からの参加登録	500 米ドル
・ インドネシアからの参加登録	100 米ドル
・ インドネシア学生	50 米ドル
・ PIANC AGA*(年次総会)参加登録	300 米ドル
* Smart Rivers 2027 の前日開催予定	
・ ショートコース(講座)参加費	無料

会議テーマ(1/2)

同上参照→ <https://smartrivers2027indonesia.com/abstracts/>

Waterway Infrastructure (水路等インフラ) -Navigation Improvements (港湾・水路の改良) -Navigation Structures (港湾・水路構造物) -Ports, Harbors, Multimodal Terminals (港湾, 複合一貫輸送ターミナル) -Infrastructure Assessments & Monitoring (インフラの(健全度等)評価及びモニタリング) -Innovative Materials (革新的な材料) -Natural & Nature-based Infrastructure (自然及び自然を活用したインフラ)	Smart Shipping & Waterways (スマート水運と水路) -E-navigation, River Information Services (電子航行, 河川情報サービス) -Autonomous / Automated Sailing and Smart Vessels (自律/自動運航とスマート船舶) -Digital Twins, Virtual & Augmented Reality, & Artificial Intelligence (デジタルツイン, 仮想現実・拡張現実と AI)
Climate Change & Community (気候変動とコミュニティ) -Navigation Improvements (港湾・水路の改良) -Navigation Structures (港湾・水路構造物) -Ports, Harbors, Multimodal Terminals (港湾, 複合一貫輸送ターミナル) -Infrastructure Assessments & Monitoring (インフラの(健全度等)評価及びモニタリング) -Innovative Materials (革新的な材料) -Natural & Nature-based Infrastructure (自然及び自然を活用したインフラ)	Rivers & River System Management (河川, 水系管理) -Asset Management (アセットマネジメント) -Dredging, Beneficial Use, and Regional Sediment Management (浚渫, (浚渫土)有効活用, 域内堆積土の 管理) -Multi-use Waterways (水路の多目的利用) -Safety and Security (安全とセキュリティ) -Resilient Rivers and Waterways (強靱な河川・水路) -Ecologic Restoration (生態系の再生) -River Recreation and Fisheries (河川レクリエーシ ョンと漁業) -Basin Scale Modelling and Predictions (流域規模のモデル化と予測)

会議テーマ(2/2)

Logistics (ロジスティクス) -Riverine Ports (河川港) -Multi-Modal Transport (複合一貫輸送) -Intermodal Transport: Containerization of Inland Waterways (インターモーダル輸送: 内陸水運のコンテナ化) -Innovations, Containers on Barge (イノベーション, コンテナ・バージ輸送)	Additional IW (Inland Waterway) Topics (追加的な内陸水路のトピックス) -Public-Private Partnership (官民連携(PPP)) - Waterways and National Security (水路と安全保障) -Economic Modelling and Co-benefits (経済モデルと共通便益) -Finance, Investment, and Trade (資金調達, 投資, (ビジネス)市場展開) -Institutional and Regulatory Perspective (制度面・規制面からの視点) -PIANC WGs (in Relation with Conference Topics) (PIANC のWG(本会議のテーマ・トピックスの関連WG))
---	--

概略プログラム(仮) 英語版サイトはこちら→[Program – Smart Rivers 2027](#)

6/11(金)～	・PIANC 執行委員会(ExCom)
6/12(土)	・PIANC 評議会(Council) ・PIANC 技術委員会等(内陸水路委(InCom), 財務委(FinCom)等)
6/13(日)	・PIANC 年次総会(AGA)
6/14(月)	・Smart Rivers 2027 本会議前日ショートコース(講座) ・UN-ESCAP, メコン川ワークショップ ・Smart Rivers 2027 本会議参加受付 ・レセプション(夜) ・展示ブース等設営
6/15(火)	・Smart Rivers 2027 開会式 ・全体セッション ・技術セッション 1a, 1b ・カジュアル全体交流会(夜)
6/16(水)	・技術セッション 2a, 2b, 3a, 3b ・ガラディナー(夜)
6/17(木)	・基調講演(UN-ESCAP, PIANC 内陸水路委(InCom)) ・技術セッション 4a, 4b ・Smart Rivers 2027 閉会式 ・若手技術者(YP)ネットワーキング等(夜)
6/18(金)	・テクニカルツアー
6/19(土)	・文化交流ツアー

※各会合・セッション等の開催場所: Novotel Hotel

PIANC 自然との協働・共生賞 (Working with Nature (WwN) Award)

「自然との協働・共生」は、持続可能な港湾・水路インフラプロジェクトにおける積極的かつ統合的アプローチを推進するPIANCの国際的イニシアティブです。2008年以降、世界中で「自然との協働・共生」の理念を採り入れた数多くの港湾・水路インフラプロジェクトの開発がされてきました。PIANCはこうしたプロジェクトを表彰、認定証を授与することでその取組みを称えたいと考えています。



WwNのフレームワーク(PIANC WG176 報告書第4章(無償・公開部分)より抜粋)

WwNでは、港湾・水路の開発、拡張、成長に係るプロジェクト目標の達成のため、設計段階にてサイト固有の生態系特性の考慮を推奨しています。理想的には、WwNでは設計着手前からのプロジェクト目標の策定への組み込みを含んだ完全統合されたアプローチを必要とします。WwNはプロジェクトのほぼ全段階において実施可能ですが、構想・設計・実施の初期段階にて導入することが環境に好影響をもたらす機会として有望です。設計プロセスの後期段階でのWwNの概念の導入はより大きな労力を必要とし、プロジェクト着手時ほどの効果は期待できない場合があります。

2011年のPIANCポジションペーパーで確立したアプローチと、WG報告書によりプロジェクトのライフサイクルは、下図のステップで構成されます。



自然との協働・共生賞(2019-2024 期間)受賞者(PIANC 本部ウェブサイト発表資料より抜粋)

- 1位: 浚渫土の有効活用と生態系ツールによる生息地の回復(Recovery of Habitats Beneficial Use of Dredged Materials and Bio-tools), Huelva 港湾管理者, スペイン
- 2位: ハンコック郡・干潟生息域海岸とパール川維持浚渫(Hancock County Marsh Living Shoreline and Pearl River Maintenance Dredging), Anchor QEA Inc. 社, 米国
- 3位: マデイラ川航行改善計画調査(Madeira River Navigation Improvement Planning Study), 米国陸軍工兵隊・ブラジル

日本の若手技術者（YP Japan）が対面参加のネットワーキングイベントを開催

2026 年 7 月 27 日，（一財）国際臨海開発研究センター(OCDI)において，YP Japan の対面イベントが開催されました。今回は新規参加者が多かったことから，参加者同士の自己紹介からイベントを開始しました。続いて，YP Japan からのお知らせとして，PIANC および YP Japan の組織概要，これまでの活動内容，今後予定しているイベントなどについて紹介が行われました。

セミナーでは、「海外技術協力プロジェクトの事例」「インドネシア・パティンバン港の事例紹介」「海藻バンクの取り組み」の 3 つのテーマについて講演が行われました。国際協力，海外港湾整備，ブルーインフラに関わる幅広い話題が取り上げられ，参加者にとって，普段の業務とは異なる分野の知見に触れる貴重な機会となりました。

当日は，研究機関，建設会社，コンサルタント，メーカーなど，さまざまな組織から計 30 名が参加しました。イベント後に開催された意見交換会にも 25 名が参加し，所属や専門分野を越えて活発な情報交換と交流が行われました。

新たに YP Japan の活動に参加した方々を含め，多くの若手技術者が対面で交流を深める大変盛況なイベントとなりました。



自己紹介セッション



セミナーセッション

[Bruno Maggiolo](#)

若手技術者委員会(YP-Com)事務局

「港湾の気候変動に対する強靱化ガイダンス」策定に向け、PIANC WG 259 のブラッシュアップ会合を開催



7 月に「気候変動に対する港湾の強靱性(レジリエンス)の評価(Port Climate Resilience Assessment)」に関する PIANC WG 259 委員 12 名が、強靱性の理論と港湾運用の最前線との間にある乖離・ミスマッチを埋めるという、共通かつ緊急性の高い作業に取り組むために参集した。実り多き 2 日間の活動により、同 WG は、近く発刊予定の「港湾インフラおよび運用の強靱化のための実践ガイダンス」の予備の草案をブラッシュアップした。長年にわ

たり、海事業界は異常気候や異常気象の最前線に曝されてきた。

ここで、課題になってきたのは、上位の原則を投資や日々の運用に関する決定へと反映（翻訳）である。WG 259 の包括的な目標は、港湾の強靱化を理解するための既存の理論上の原則について、意思決定のための実用的かつ行動可能な枠組みへと翻訳することである。報告書の完成後、この枠組みは世界中の港湾当局や関係者を支援し、以下のことを可能とすることを目指すもの。

- ・意思決定面の向上・改善：一般的な内容にとどまることなく、参照先や推奨事項を具体的に提示することにより、港湾部門に対する詳細かつ実践的なガイダンスを提供
- ・明確なステップと要件の確立：金融業界や政府が、強靱化に係る評価の適格性を判定する支援を提供
- ・実効的な関係者間の協働・連携：強靱化の計画及び実行プロセス全体を通して、全ての関係者の確実な統合

近く発刊予定の「実践ガイダンス」は、環境委員会(EnvCom)による「PIANC WG 178(注 1)」「テクニカルノート No.1(注 2)」「テクニカルノート 2(注 3)」の基礎的な知見をさらに発展させたものである。これら過年度の報告書では、既存の港湾や水路における気候変動への適応策、これらの適応策のビジネスケース（投資対効果）の検討方法、そして強靱性を備えたインフラの選択・評価における不確実性をどのように管理するかガイダンスを提供するものである。今回の WG 259 は、上記 3 つの報告書の知見の多くを統合し、新設および既存のインフラ双方に適用するものである。これにより、プロジェクトオーナー、金融機関、民間開発機関が、開発や運用において気候変動への強靱性を考慮するための「優良な業界の実践例」を明確にする。また、本ガイダンス全体を通して、推奨される各ステップを示した具体的な実例も盛り込まれる予定である。

本 WG の策定ワークショップを主催していただいた PIANC 本部に深く感謝します。この重要なガイダンスの校正や最終とりまとめに応じて、WG 259 進捗に関する更なる最新情報を適宜共有する予定である。

(注 1) 港湾・内陸水路のための気候変動適応策 (Climate Change Adaptation planning for ports & IWs)

(注 2) 気候変動の不確実性に対応する水上交通インフラの強靱化のための選択肢の選定, 評価, 設計

(Managing Climate Change Uncertainties in Selecting, Designing and Evaluating Options for Resilient Navigation Infrastructure)

(注 3) 気候変動対応のための費用：適応策への投資のビジネスケース評価スコーピング

(Climate Change Costs to Ports and Waterways: Scoping the Business Case Assessment for Investment in Adaptation)

[Katherine Chambers](#)

WG 259 議長

PIANC WG 日本委員が国土交通省から表彰されました

2026 年 8 月 6 日、PIANC MarCom（海港委員会）WG 205 と WG 243 の日本委員が「国土交通省港湾局長表彰（国際貢献活動）」を受賞しました。

同賞は、国際機関におけるガイドライン等の策定に顕著な貢献をした技術者を表彰する制度として、2026 年 4 月に国土交通省港湾局により創設されたものです。

受賞者及び所属企業、所属する PIANC WG は以下のとおりです。

- ・熊谷 隆宏 氏（五洋建設㈱）

PIANC WG 205(軟弱地盤上の防波堤の設計・建設, Design and Construction of Breakwaters on Soft Seabeds)

- ・中西 雅時 氏（㈱オリエンタルコンサルタンツグローバル）

PIANC WG 243(コンテナターミナル舗装の設計,維持及び持続可能性, Design, Maintenance and Sustainability of Container Terminal Pavements)



写真の前列左から、中西雅時氏(受賞者)、安部賢 国土交通省港湾局長、熊谷隆宏氏（受賞者）



PIANC-IAPH アジアセミナー2026 -港湾における脱炭素化- 日本語版フライヤー

本ウェビナーの参加登録はこちらから <https://forms.gle/gnNPBqjPqQcMtrEC7>



共催
iaph
International Association
of Ports and Harbors

2026. 8. 28版



後援:

国土交通省
水産庁
(独)国際協力機構(JICA)

PIANC-IAPH アジアセミナー2026 -港湾における脱炭素化-

日時

2026年10月23日(金) 15:30 - 18:00 (日本時間)

参加費: 無料 | 定員: 200名

使用言語: 英語 (日英同時通訳あり) | ウェビナー方式: Zoom

参加申込URL: <https://forms.gle/gnNPBqjPqQcMtrEC7>

本年10月に「PIANC - IAPHアジアセミナー (第6回PIANCアジアセミナー)」を開催しますのでご案内いたします。研究者や技術者の経験、知見及び最新技術を共有する場として成功を収めてきた過去5回のセミナー実績も踏まえ、今年は姉妹協会であるIAPHとの共同開催とし、テーマを「港湾における脱炭素化」としました。インド、インドネシア、日本の著名な講師陣をお迎えし、「ネットゼロ(温室効果ガス排出実質ゼロ)」の実現に向けた様々な課題についてご講演いただきます。この喫緊かつ重要なテーマに関心をお持ちのすべての皆様のご参加を心よりお待ちしております。

プログラム (仮) 15:30 - 18:00 (日本時間) モデレーター: PIANC環境委員会 日本委員 中崎剛

15:30 **開会(主催者挨拶):** PIANC副会長 栗山善昭
IAPH副会長 元野一生

15:35 **開会挨拶:** 国土交通省 大臣官房
技術参事官 森橋真

15:40 **PIANC本部からのビデオメッセージ:**
PIANC会長 フランシスコ・エステバン・レフラー

15:45 **講演1: カーボンニュートラル実現に向けた
港湾の気候変動対策**
神戸大学大学院海事科学研究科 杉村佳寿 氏

16:10 **講演2: グリーンな地平への舵取り: エネルギー
ハブとしての港湾の再定義 - DPA*の展望**
インド・ディーンダヤル港湾局(DPA)
ニラブハラ・ダスグプタ氏 *旧カンドラ港湾公社

16:35 **講演3: 港湾の脱炭素化に関する評価 - 脱炭素化
ギャップの克服 (インドネシア港湾の事例)**
(国営)インドネシア船級協会
ムハンマド・ライハン氏

17:00 **講演4: カーボンニュートラルのためのブルーカーボン生態系の活用**
港湾空港技術研究所(PARI) 渡辺謙太 氏

17:25 **質疑応答**

17:50 **閉会挨拶:** 水産庁 漁港漁場整備部 事業課長 中村克彦



参加申込URL: <https://forms.gle/gnNPBqjPqQcMtrEC7>
申込期限: 10月16日

QRコード(右)からも聴講申込可能



土木学会CPDプログラム
認定番号JSCE26-1103
2.2単位

講師紹介 (講演順)

2026. 8. 28版



杉村 佳寿 氏 (日本)

神戸大学大学院海事科学研究科 教授
東京大学において工学博士号を取得

1999年に運輸省(現 国土交通省)入省、主に中央省庁(港湾、航空、環境部局)の勤務を経て、2024年4月から神戸大学に勤務。25年間にわたる幅広い分野の行政経験も活かし、グリーントランスフォーメーション(GX)やデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進などの現代の社会的ニーズも取り込みながら、港湾、空港、国際物流、及び環境政策を専門とする研究を進めている。

ニラブハラ・ダスグプタ 氏 (インド)

ディーンダヤル港湾局*(DPA)副会長 *旧カンドラ港湾公社

ニラブハラ・ダスグプタ氏は、2025年7月に現職(DPA副会長)に就任。インド国税庁2008年入庁の幹部職員として、インフラ・ガバナンスや持続可能な開発における広範な専門知識をDPAに導入している。同氏のリーダーシップの下、DPAはインド最大の港湾としての地位を確立し、脱炭素化の戦略にも合致するインド主要港における先駆的な取り組みを主導している。インド初のメガワット級の完全国産グリーン水素プラント建設や、陸上から船舶へのメタノール燃料供給事業などである。同氏は、インドの港湾を世界で最も効率的かつデジタル化され、環境面でも持続可能な水上交通のゲートウェイに位置づけることに尽力している



ムハンマド・ライハン 氏 (インドネシア)

(国営)インドネシア船級協会 グリーン&スマートポート監査役

2023年にBKIに入社。グリーン&スマートポート監査役として、サステナビリティ(持続可能性)とデジタル化の基準に基づく港湾施設の統合評価において、豊富な現場経験を有する。厳格な監査手法と、IoT、リアルタイムモニタリング、デジタルプラットフォーム等のスマート技術が水上交通のオペレーションにおいて環境面からのパフォーマンスをどのように向上させるかという実践的な理解を兼ね備えた「港湾の脱炭素化」の評価に取り組んでいる。

渡辺 謙太 氏 (日本)

(国研)海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究領域 上席研究官
京都大学において博士号(農業)を取得

2012年から港湾空港技術研究所(PARI)にて勤務。現在は、植生のある沿岸生態系の能力(機能)の定量化や、これら機能の基盤となる生物地球化学的及び生態学的メカニズムに関する研究に取り組んでいる。「国連・海洋科学の10年」下の「ブルーカーボンのための世界海洋10年計画(GO-BC)」科学技術WGメンバーの他、PIANC環境委員会(EnviCom)WG 256「ブルーカーボンの理解醸成-実践ガイド」日本委員も務めている。



主催(共催)者代表



栗山 善昭

PIANC副会長(アジア、大洋州担当)



元野 一生

IAPH副会長(南アジア、西アジア、東アジア及び中東担当)



中崎 剛

PIANC環境委員会
日本委員

モデレーター

問い合わせ先、 CPD関連の連絡事項



・問い合わせ先:

PIANC Japan 担当: 米田・川田
TEL: 03-5226-0357

e-mail: yonedat@pianc-jp.org
mkawada@pianc-jp.org

・土木学会認定CPDプログラム受講証明 ご希望の皆さまへ

認定番号JSCE26-1103, 2.2単位

*証明書ご希望者には、受講後メール連絡いたします。

*システム記録によるセミナー視聴状況の確認をします。

*受講後の所見(学びや気付き)の提出が必要です(100文字程度以上)。

*土木学会以外の団体への提出方法等は、当該団体への事前確認をお願いします(他団体運営のCPD制度の内容については回答いたしかねます)。

QRコード(右)から聴講申込可能。
申込登録者には後日、ZOOMウェビナーURLを送付します。



PIANC スペイン 第 21 回若手技術者委員会 技術会合

長年にわたり、PIANC スペイン若手技術者委員会(Young Professionals Committee)の年次技術会合は、同委員会の最も重要な活動の一つとなっています。その主な目的は、港湾および海岸分野の若手技術者に対するネットワーク構築と知識交換のためのフォーラムの場の提供です。同時に、講演発表や技術視察を通じて、最新の技術開発の成果を普及させるプラットフォームとしての役割も果たしています。

第 21 回若手技術者・技術会合は、Vigo 港で開催されました。同港は、RoRo 船の発着において欧州をリードする港湾であり、食用の漁獲取扱量でも欧州最大の漁港でもあります。また、その他の多くの関連産業部門の中では、商業用船舶の建造および修理活動におけるスペイン最大の拠点となっています。

今回のイベントには、参加者と登壇者合わせて計 87 名が参加しました。



[Noelia González Patiño](#)

海港委(MarCom)スペイン委員

PIANC スペイン部会 年次総会を開催 2026 年 6 月 18 日

スペイン部会の年次総会が 2026 年 6 月 18 日、マドリードにて開催されました(於 スペイン港湾庁(Puertos del Estado)本部)。

主な議事は以下のとおり。

- 2025 年度のスペイン部会の活動報告(会長及び事務局)
- 2027 年度の年会費の承認
- 年間予算の承認
- PIANC 各委員会及び国内技術委員会の活動報告
- 国内若手技術者委員会(YP-Com)の活動報告
- PYCture 賞 2026
- Modesto Vigueras 賞 2026 – I 位受賞(若手技術者部門と共同受賞):
 - ・ **Verónica Morales Márquez 氏**: HF レーダーを用いた海象推算-港湾及び海岸管理のための一層効率的な運用システムに向けて(Sea State Estimation Using HF Radars: Towards More Efficient Operational Systems for Port and Coastal Management)
 - ・ **Alba Ricondo Cueva 氏**: ハイブリッドモデリングによる複合洪水リスクの効率的な評価(Efficient Assessment of Compound Flood Risk through Hybrid Modelling)



左から Manuel Arana Burgos 氏(PIANC スペイン部会会長), Verónica Morales Márquez 氏(I 位受賞)

[Noelia González Patiño](#)

PIANC MarCom(海港委) スペイン代表委員

PIANC 海港委委員会(MarCom)ワークショップ 2026 年 6 月 18 日

スペイン部会の年次総会のプログラムの一環として、以下の PIANC WG 報告書に係るプレゼンをメインとするワークショップを開催しました。

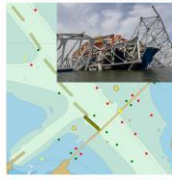


Asociación
Técnica de
Puertos y
Costas

Jornada MARCOM – 18 Junio



ACCIDENTAL IMPACTS FROM SHIPS ON FIXED
STRUCTURES: DESIGN CONSIDERATIONS



MarCom Working Group Report N° 215 - 2026



WG 215

Impacto accidental de buques
en estructuras fijas

WG 215(固定構造物と船舶の衝突による
事故の影響：設計上の考慮事項,
Accidental Impacts from Ships on Fixed
Structures: Design Considerations)



MOORING OF LARGE SHIPS AT QUAY WALLS



MarCom Working Group Report N° 186 - 2025



WG 186

Amarre de grandes buques a
muelle

WG 186(大型船舶の岸壁係留方法,
Mooring of Large Ships at Quay Walls)



PIANC FENDER GUIDELINES 2024



MarCom Working Group Report N° 211 - 2024



WG 211

Guía para sistemas de
defensas

WG 211(PIANC 防舷材システム・ガイド
ライン 2024, PIANC Fender Guideline
2024)



CRITERIA FOR ACCEPTABLE MOVEMENT
OF SHIPS AT BERTHS



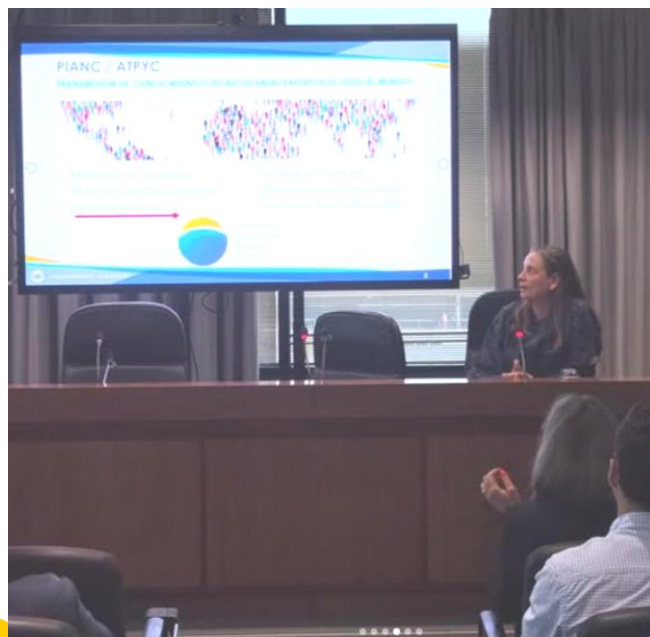
MarCom Working Group Report N° 212 - 2023



WG 212

Criterios de aceptación de
movimientos de buques
amarrados

WG 212(岸壁における船舶の許容動揺基準,
Criteria for Acceptable Movement of
Ships at Berths)



Noelia González Patiño

PIANC MarCom(海港委) スペイン代表委員

PIANC 英国 若手技術者セミナー

2026 年 9 月 14 日

18:00～19:30 英国標準時(BST)(GMT+1)

国際航路協会英国部会(PIANC 英国)主催の「若手技術者(YP)セミナー」にぜひご参加ください。本イベントは、海事、沿岸、水上インフラ分野にて活躍している若手技術者の知見、イノベーション及び成果を紹介する魅力的なセミナーです。

今年のセミナーでは、様々なプロジェクトやトピックスを網羅する簡潔かつ洞察に富む一連のプレゼンテーションを行います。

参加者の皆さまには、以下のテーマを深く掘り下げていただけます。

- ・英国のネットゼロ目標の達成に向けた既存港湾インフラの転換
- ・岸壁設計を自動化する革新的アプローチ
- ・Blackpool 沿岸域における海岸工学上の環境スチュワードシップの役割
- ・エジプトの大規模沿岸域開発(Ras El Hekma)における地盤工学面の施工管理

本セミナーは、幅広い参加者に対し、若手技術者が自身の専門知識や経験を発信できるプラットフォームとして企画されており、貴重な技術的知見や実践的な教訓及び、専門的な議論の機会を提供します。

イベント開始前には軽食を片手に同僚や業界専門家とのネットワーキング形成を図ることができ、イベント終了後のネットワーキング・レセプションも計画していますので、引き続き交流を深めていただけます。

本イベントは、英国土木学会 (Institution of Civil Engineers) により開催されます。参加登録はこちら：<https://www.ice.org.uk/events/upcoming-events/pianc-uk-young-professional-seminar-2026>

Nigel Bodell
PIANC UK

プレスリリース

2026 年 6 月 16 日

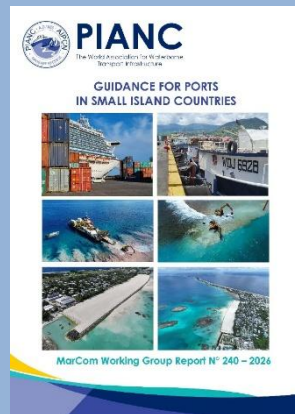
小規模島嶼国の港湾のガイダンス(Guidance for ports in small island Countries)

海港委員会(MarCom) WG 240*

価格：非会員 166 ユーロ／会員 無料 (108 頁)

<https://bit.ly/4vV6fYt>

*PIANC-Japan 事務局(注)WG 240 日本委員：元野一生氏
(一財)国際臨海開発研究センター)



国際航路協会(PIANC)は、「MarCom WG 240(2026) 小規模島嶼国の港湾のガイダンス」の発行を発表します。本報告書は、小規模島嶼国(SICs)における港湾インフラの計画、設計、建設、運営及び長期的な持続可能性をサポートするために策定し、実践的かつ包括的枠組みを提供するものです。

小規模島嶼国の港湾は、貿易や交通の結節点として、不可欠な物資やサービスへのアクセスを可能とする極めて重要な「ライフライン」としての役割を果たしています。しかしながら、こうした港湾は、次のような特有の課題に直面しています。

- 地理的な孤立性と限定的な交通接続
- 人口の少なさ及び人的能力・リソース上の制約
- 天然資源の乏しさや、貿易上の大きな不均衡
- 気候変動や自然災害に対する脆弱性
- 環境条件の脆弱性
- 開発整備や維持管理に対する財政的・制度的な不足

本 WG 240 では、PIANC のこれまでの取り組みを基礎としつつ、現在の世界的な優先課題も反映して内容更新を行い、小規模島嶼国の現実の環境に応じた指針を提供し、こうした課題に直接取り組むものです。

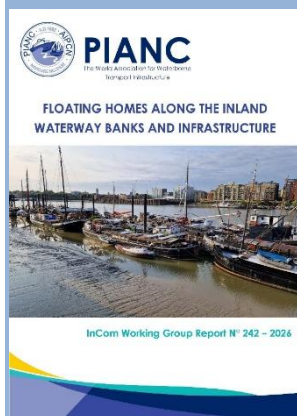
WG 240 報告書は、太平洋、カリブ海及び AIS(Atlantic, Indian Ocean, South China Sea)地域における幅広い経験を有する国際的かつ多分野にわたる専門家グループ(構成は下記のとおり)により作成されました。

- 小規模島嶼国の港湾管理者当局及び政府機関
- 開発銀行を含む国際金融機関
- 水上交通・海事分野コンサルタント、エンジニア、コントラクター
- 水上交通・海事業界全般にわたる民間部門のステークホルダー

本報告書は、港湾の開発面及び運営面のライフサイクル全体にわたった体系的な指針を提供しており、その内容構成は以下のとおり：

1. 戦略的背景と地域的な考慮事項
2. 環境および気候変動に関する考慮事項
3. 計画および運営の枠組み
4. 設計、建設、および資産の維持管理
5. 持続可能性、エネルギー及び脱炭素化
6. 資金調達および開発整備モデル

WG 240 は、既存の技術基準の単なるコピーではなく、「何を考慮すべきか」について、様々な状況に適応した指針を提供し、小規模島嶼国の条件によって既存の PIANC 及び業界ガイドラインの効果的な適用を可能にしています。



プレスリリース

2026 年 6 月 17 日

内陸水路護岸・インフラ沿いの浮体式住居(Floating Homes along the Inland Waterway Banks and Infrastructure)

内陸水路委員会(InCom) WG 242

価格：非会員 182 ユーロ／会員 無料 (120 頁)

<https://bit.ly/3SJ4EqI>

ハウスボートや浮体式建築物を含む水上住宅は、世界中の内陸水路沿いで一層「目につく」ようになっていきます。住宅需要の高まり、利用可能な土地の不足、そして水辺での暮らしの魅力の向上を背景にして、こうした動きは多くの地域で勢いを増しています。同時に、こうした動向は、航行の安全性、法的枠組み、技術的な要件、環境保護に関連して重要な課題の提起につながっています。

新たに刊行された WG 242 報告書は、浮体式住居及び、それらの住居が内陸水路システムに組み入れられている状況について、包括的かつ国際的な概観状況を提供しています。広範な調査と多岐にわたるケーススタディに基づき、現時点の実情を分析し、主な課題の特定とともに、関係する管理当局、計画担当者や開発者に向けた実践的なガイダンスを提示しています。

本報告書の中核をなす原則は、浮体式住宅を許可するか否か、また、どの場所に許可するかという決定は、依然として所管当局の責任という点でし。本 WG では、住居の設置場所を指定することではなく、安全かつ持続可能な統合・同住居の組み込みを確保するために考慮すべき要因に焦点を当てている。特に、内陸水路の本来の機能である「安全かつ効率的な航行」の維持に重点が置かれている。

本報告書の主な貢献点の一つは、通常は船舶として分類されるハウスボートと、航行不可能な構造物である浮体式建築物を明確に区別している点である。この区別は、許可手続き、技術的要件、検査体制、及び長期的な管理という点に直接的な影響を及ぼすものです。

本報告書では、既存の規制面の枠組みが断片化されたものになっていて、その多くが船舶関連の法規制に基づくもので、これらは恒久的な居住用途に必ずしも適していないことを指摘しています。こうした両者の隔たり・不備に対処するため、本報告書では、立地および空間計画、許可・ガバナンス、技術的設計、航行安全、環境保護、サービス提供、維持管理、及び使用終了時の対応を網羅した体系的な一連の提言を示しています。

本報告書は、規範的な基準を策定したものではなく、柔軟なツールキットであると理解すべきです。その提言は、事例ごとの意思決定をサポートすべく意図されており、地域の状況、規制上の環境、水路の特性に合わせて適応させることができます。この点において、関係当局間の緊密な協力と、確固たるエンジニアリング上の専門知識の活用は依然として不可欠です。

本報告書は、課題と可能性の両者に言及することで、水辺開発の新たな形態としての浮体式住居への理解を深めることに寄与します。その目的は、航行、環境保護、公共の安全を損なうことのないことを確保しつつ、浮体式住宅が内陸水路に安全かつ持続可能で、適切に管理された形で組み込まれることを支援することです。

